

みのりの小道通信 2018年11月号

ミニ学術植物園「みのりの小道」を活用した
「学生・地域とともに育ち、歩む大学」づくり

島根大学(松江キャンパス)松江市西川津町 1060
TEL : 0852-32-6492 (生物資源科学部 事務室)
Email : yamagishi.kazuto@gmail.com (山岸)
平成 30 年 11 月 21 日 発行

最近の TV ドラマから。子どもが木の葉や枝等で作品をつくっている場面で祖父が一言。「今、どんな気持ちかな?」。普通だったら、大人は「すごいね」「よく作ったね」と感想をすぐ言ってしまいがちですが、一呼吸置いた「待つ」対応、とってもいいなあと感じました。

前回(8月7日)第165回公開作業

主な実施内容(Do)

参加者 28 名(一般 10 名、学生 11 名、教職員 7 名)で行いました。

できる作業・体験等: 体験_ブルーベリー収穫 体験_ちょうどいい賑わいづくり 試食_ジャガイモ・スイカ等 観察・作業_半月状畑の管理・アズキの出芽状況 体験_焚き火 体験_竹皿・竹スプーン・竹カップ作り 見学_#カイジウ展@島大総合博物館 体験_竹とクズとセイタカアワダチソウで弓矢づくり

みんなでやる体験・お話等: 試食_ブルーベリーアイスクリーム お話_経済性の高いアユ養殖を目指して お話_シマミズとフトミズ 報告_授業「栽培実習で学んだこと」 報告_幼稚園生がアイガモを田に放つ 交流_みのりの小道通信の発行

竹とクズとセイタカアワダチソウで弓矢づくり



アンケート結果等 1(Check&Action)

- ・体をどのくらい動かしたか; 極小 0% 小 12% 中 47% 多 18% 極多 24%
- ・本日の活動に満足したか; そう思う 94% 少しそう思う 6% どちらでもない 0% あまりそう思わない 0% そう思わない 0%
- ・印象に残ったもの(複数回答); シマミズとフトミズのお話 41% 授業「栽培実習」で学んだこと 41% ブルーベリー収穫 35% 竹とクズとセイタカアワダチソウで弓矢づくり 29% ブルーベリーアイスクリーム試食 18% ちょうどいい賑わいづくり 18% ジャガイモ・スイカ等の試食 12%
- ・本日のみのりの小道を一言で表現すると? ; 学び、早く過ぎた楽しい時間、美味しい、賑わい、自然とのつながり、人間育て、ごちそう、草と栽培、暑さの中の涼しさ、童心に返る、大切な交流会、自然味、夏の味覚、輝き、遊び

アンケート結果等 2(Check&Action)

【シマミズとフトミズのお話】 ミズが農業にどのように有益なのか分かり、興味を持つことができた ミズは農業に役に立つので頑張って研究してほしい。自分が文系なので研究のお話は普段触れることがないのでとても新鮮だった 学生さんたちが自分のやっている研究や作業について話す時、すごく目がキラキラしているなーと感じた。何だかとてもうらやましい...

【授業「栽培実習」学んだこと】 興味深く聞かせてもらった。一つ一つの植物に名前があること、それに気づいたらどれだけ世界が広がったと思う 自然と触れ合って人と自然のつきあい方、とらえ方を考えるきっかけが島大の中であって、皆さんが色々なことを感じていく姿がとても嬉しかった。 弓づくりは案外力がいたり、ノコギリがこんなに難しく大変なんだとすごく実感した 学生さんたちと弓矢を作ったり和気あいあいと楽しい時間が過ごせた。

【試食】 お腹も心も満たされた 沢山の試食、美味しかった。酸味の強いトマトは皮を湯むきしてオリーブオイル、ハチミツ、レモン汁につけると誰でも食べれる ジャガイモ、スイカ、アイス... お腹いっぱい食べられて幸せだった。草抜きで体を動かした後の冷たいものは最高 野菜もフルーツもデザートもパンもとてもおいしかった 色んな野菜や果物、アイスも食べれてとても幸せだった。食べた方がすごく喜んでおいしいと言ってらっしゃるのを聞いて、私が育てたわけじゃないけどすごく嬉しかった。

【その他】 コスモス畑とアズキの経過を見守っていきたい ブルーベリーの除草・収穫中にどこからか蚊がわんさか出てきてどうにかしたいなあとと思った

みのりの小道をはじめ、島大のキャンパスの中で身近な自然と触れ合う機会があることに、まず気づくこと、感じる事が大切ですね。

みのりの小道や園芸同好会の畑でとれた野菜・果物の幸をみんな満喫されたようですね。

蚊が気になった暑い夏、ついこの間のことに感じます。

今回(11月21日)第166回公開作業

主な計画(Plan)

できる作業・体験等:

体験_焚き火 体験_カリン・ザクロ・カキ収穫 体験_ヤーコン・ダイズ収穫 観察_クロタリア・皇帝ダリア・キクイモの花 試食_花梨シロップ・石榴シロップ・干し棗、焼き芋 作業_野外卓のヒマラヤスギ葉の除去 作業_落ち葉集め by 西澤(学生)

みんなでやる作業・お話等:

お話_多面的機能支払交付金検討委員会の紹介 by 深田(教員) 体験_クリスマスリースづくり by 花崎・西澤(学生)& 亀本(一般) 紹介_島大陶芸部 by 長田(学生) 告知_プレプレまつえキッズのプレーパーク by 樋口(学生) 紹介_半栽培における植物との関わり方 by 山岸(一般) 交流_みのりの小道通信の発行 by 山岸(一般)

例えばこんなクリスマスリース



次回の公開作業等の予定(Plan)

第 167 回: 1 月 11 日(金) 14:30 ~ 16:30: 焚き火 落ち葉集め& 落ち葉堆積場づくり ブルーベリー・カキ・ザクロの剪定 陶芸体験 プレ卒論発表会

今後は年に 4~6 回程度の不定期開催予定です!



【報告】多面的機能支払交付金の現地検討会がありました by 深田耕太郎(生物資源科学部教員)

「多面的機能支払交付金」は農村の維持や更なる発展を図るための地域活動を支援する補助金です。平成 25 年度までは「農地・水保全管理支払交付金」と呼ばれていました。農村を維持するための共同活動には、畦畔の草刈り、水路の泥上げ、農道やため池の簡単な補修、植栽による新たな景観づくり、ビオトープづくり、小学校課外活動による農地の利用などがあります。島根県にはこの交付金をもらって活動している組織が 642 あります。また、島根県における農業振興地域の農用地、約 4 万 ha のうち、半分ぐらいの農地に対して交付金が支払われています。

11 月 12 日(月)に現地検討会が行われ、大田の志学中央保存会の活動と邑南町口羽地区農地・水・環境保全管理協定の活動の報告を現地で受けてきました。

志学は水田が傾斜地に集中している所で、法面が大きく草刈りが大変です(写真左)。しかし遊休農地をつくることなく従来の農業を維持できている優秀な所です。口羽の組織は点在する遊休農地を有効に活用するため、ユニークなアイデアで勝負しています。例えば、花桃を植えて花桃祭りを開催したり(写真中央)、地元の小学生といもほり学習を通じて交流を図ったりしています(写真右)。

今回の現地検討会で活動組織から島根県農村整備課へ出された要望は、交付金の申請に係る事務作業の負担軽減、不在地主の農地を集約し活動組織が管理できるようにする法律の整備、交付金制度の拡充などです。個人的には検討委員会のメンバーとして力を発揮できるように、もっと勉強しなければならないと思いました。



農道法面の草刈り
(大田市志学)



花桃まつり
(邑南町口羽)



いもほり学習
(邑南町口羽)

【紹介】島根大学陶芸部 by 長田晴樹(島根大学陶芸部部長)

こんにちは、島根大学陶芸部です。今回はあまり知られていない私たちの活動について紹介します。私たちは主に毎週水曜日に集まり、コップや茶わん、平皿、置物などを粘土を練るところから始め形を作っています。できた作品はしばらく乾燥させ一度焼いた後釉薬(塗料のようなもの)をつけてもう一度焼くことで完成となり、自分のものにしたり学祭で販売したりしています。

一見簡単そうに見えるこれらの作業ですが実際にやってみるとなかなか思い通りにいかなくて何度も失敗してしまうこともあります。しかしどんどん作品を作っていくうちに陶芸の奥深さが分かってきたり、様々な技法を試したりできるのでとても楽しく作品が完成した時には何物にも代えがたい達成感を味わうことができます。最近はやりカラフルな釉薬も使うので鮮やかな作品も増えました。これからも私たちは一つ一つ丹精こめて陶器を作っていこうと思います。もし興味があれば部の見学に来てください。また、今後みのりの小道で陶芸の体験を行うことができれば良いなと考えているのでその時は是非気軽に参加してください。お待ちしております。



https://twitter.com/shima_tou

【紹介】「半栽培における植物との関わり方から園芸療法を考える」 by 山岸主門(こどもの園@茨城県牛久市)

11 月 24-25 日に大阪で日本園芸療法学会の大会があり、「半栽培における植物との関わり方から園芸療法を考える」というタイトルで発表予定です。以下に要旨の冒頭文のみ、記します。

「半栽培」とは、野生と栽培との間にある植物を対象として、人間と自然との多様な関係(放置的な栽培、野生植物の移植、野生植物への手入れ、いわゆる里山植物など)を表す概念である(宮内, 2009)。演者は「畑のある遊び場」「畑の中の遊び場」を志向し、人間と自然のちょうどいい関係を考えていく中で、自ずと作物の計画的な「栽培」から、少し野生方向へ移行した「半栽培」で畑を維持するようになった。様々な生きづらさを抱えた子どもたちと密接に関わるようになったここ数年、その傾向がより強くなってきている。松尾(2005)は、植物を「もの」として捉え、植物の成長に関わらない行動の効果を活用する「植物介在療法」に対して、「園芸療法」は、植物の成長に関わる「育てる」行動の効果を活用するものとしている。一般的に「育てる」とは、種播きや水やり、草取りなど人為的な手入れや世話のことを指すが、半栽培で見られる「見出す」「選択する」「バランスを保つ」「見守る」といった一種独特な「育てる」概念と向き合うことによって、園芸療法の持つ多様な価値を再認識することができるのではないかと考えている。<後略>